

市民理解は得られたのか？

Bリーグ運用変更に対応のアリーナ建設相次ぐ 民設民営と言いつながら多額の公費負担のなぜ！

福井商工会議所が駅周辺のにぎわい創出の目玉プロジェクトとして発表したアリーナ構想。市中心部の一等地を福井市が無償提供し建設する「民設民営」のアリーナ計画が一転、今年2月に整備費のおよそ半額50億円と運営費1日平均165万円の公費負担を県と市に要望してきた。議会は「話しが違つ」と紛糾するも、あれよあれよと話しは進み、すでに建設予定地のボーリング調査が行われている。あくまでも民設民営と経済界の計画に逆らわない杉本知事の本心を知る由もない。

県営体育館では条件満たさず

2000年7月、福井商工会議所が主体となり県、福井市の3者による「県都にぎわい創生協議会」を発足。北陸新幹線開業に向けて駅周辺の

活性化について協議が持たれた。その中で今年2月突然、経済界からアリーナ構想案が県と市に提出された。なぜ今、福井市に新アリー

ナを整備する必要があるのか。その理由の1つが、男子プロバスケットボールのBリーグが運用内容を新しくするからだという。

現在のB1、B2、B3が、2年後の2026〜27年シーズンからBプレミア、B1、Bネクストに変更。併せて、

クラブの経営力強化を目的に

平均入場者数4000人、事業規模12億円、5000席以上の専用アリーナ確保など条件を2季連続で満たせば、Bプレミアに参加できる資格を持つとした。Bプレミアを目指すには参加条件を満たすアリーナが必須となるため現



福井ブローウィングス専用アリーナ「セーレン・ドリームアリーナ(県営体育館)」
メインアリーナ 延床面積 約3000㎡ 観覧席2階固定席2500席 1階可動席1500席

在、全国各地でアリーナの代替えや新設を進めている。新潟アルビレックスBBはアオーレ長岡の改修により参入を目指し、富山グラウジーズは富山市総合体育館の改修に向けて富山市に支援を要望する。福井市に拠点を置くプロバスケット、福井ブローウィングスは福井市梅野町に本社のあるオールコネク트가2022年5月に立ち上げ、B3リーグに参入。初年度のレギュラーシーズンを50戦46勝4敗というB3初の記録も達成、ホームゲームでは負けなしの全勝。今年4月から行われたプレーオフでも、トーナメントを勝ち上がり優勝。シーズン、プレーオフと完全優勝を成し遂げ、10月からB2に昇格する。B2は14クラブが東西2地区に分かれてしのぎを削る。福井ブローウィングスはB2東地区に入り、10月5、6日の開幕戦をセーレン・ドリーム

アリーナ(県営体育館)で、信州プレイズウオリアーズと対戦することが決まった。B1から降格した富山グラウジーズや他地区クラブとの対戦も含め32節のレギュラーシーズンを実施。新シーズンに向けてB1サンロックス渋谷から米国出身の選手と新規契約を結ぶなど戦力強化を図りB1昇格を目指す。B214クラブの頂点制覇は簡単なことではないだろう。

専用アリーナとするセーレン・ドリームアリーナ県営体育館は、福井国体に向けて2017年春に建替工事を完成したが、最大収容人数が4000人でBプレミアの5000席以上という条件を満たしていない。5000人にしておけば一と、Bプレミアに昇格するかの如く早合点！

西川県交流文化部長は「福井ブローウィングスは1試合平均2082名の観客を動員、県内にも大きな応援ブームを